



令和 2 年 9 月 24 日 (毎月第 2・4 週配信) MANY (Morality Active Network of Youth)

モラロジー青年活動ネットワーク メールマガジン

好評につき第2弾！『ニューモラル』SNS キャンペーン！

9月1日より『ニューモラル』SNS 全国敬老キャンペーンを実施しています。研究所HPには、特別号の電子書籍や朗読音声を無料で閲覧できるようになっています。

青年の皆様、SNSを通じて命のつながりの大切さ、先人・先輩への感謝の心を私たちと共に発信していきましょう。

詳細はキャンペーンページ URL または右記の QR から

https://www.moralogy.jp/nm_sns_cp

※『ニューモラル』全国敬老キャンペーン特別号は既刊号 (H29、H30) です。

お問合せ: 青年育成課 [TEL:04-7173-3312](tel:04-7173-3312) 広報出版部 [TEL:04-7173-3547](tel:04-7173-3547)



世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」見に行きましょう！

東京新宿にある産業遺産情報センターが今年3月に開設されました。このセンターは世界文化遺産として明治日本の産業革命遺産である製鉄・製鋼、造船、石炭産業の数々が紹介されており、世界遺産として登録されるまでの経緯や幕末から明治にかけて産業国家への成長を紹介するなど、先人たちの努力と功績を知ることができます。

長崎の軍艦島で生活していた住民の方の証言録もあり、当時の様子がわかります。

ぜひお近くの方は見学してください。なお現在は、感染拡大予防のため人数を制限し、完全予約制のガイド付きのツアーです。予約はHPよりできます。

産業遺産情報センターHP (<https://www.ihic.jp/>)

九州ブロック 九州青年大学 inZOOM 開催！

9月20日、九州ブロック青年クラブ主催で第1回九州青年大学 in ZOOMを行いました。参加者は30名で、大野正英講師のオンラインで講義、振り返り学習、グループディスカッションを行いました。



前半は、新型コロナウイルスの説明でした。新型コロナウイルスを正しく恐れることの重要性・日本人の国民性について学びました。

後半は、新型コロナウイルスにどう向き合えば良いかをお話して頂きました。自助・共助・公助の精神・三方よしの精神を学ぶことで、先の見えないコロナ禍での勇気と希望を

ここでグループに分かれて、10分間の話し合いをします。
テーマ「コロナ問題で私が感じたこと」
1人当たり2分以内で話してください。
2分経ったら必ず次の人に話を渡してください。
アイウエオ順で一番早い名前の人が役割をお願いします。



頂きました。参加者から「他県の方との交流が楽しかった」「ウェビナーは参加し易い」「グループディスカッションで色々な方の意見を聞いて楽しかった」と感想をいただきました。

ZOOMを活用して良かった点は、ブレイクアウトルームを活用して、グループディスカッションが出来たことです。お陰で、講演内容をアウトプットできました。今回、長崎県からは4名参加しました。長崎県もZOOM勉強会を模索していたため、とても勉強になりました。また、他県の青年とも交流が出来たので、今後は他県の勉強会に参加したり、勉強会にお呼びしていきたいと思えます。

<報告:長崎県代表 津野田 幹太>

令和専攻塾 開塾式 特別講演会

令和2年9月12日、「令和専攻塾」が開塾しました。塾生は10代～80代までと幅広い年代層で30代～50代が中心です。当日は櫻井よしこ塾長をはじめ、担当講師の出席のもと、開塾式と特別講演会が行われました。



特別講演会で櫻井塾長は、日本を取り巻く政治や経済、外交など、米中間の中で、日本がなすべきことを熱く語り、質疑と合わせて2時間以上も塾生との時間を過ごしました。



また、櫻井塾長の講演会は、翌日、WEB配信も行われ、約370名が視聴しました。

翌日13日は、八木秀次講師による「憲法改正への道」の講義。国家とは何か、日本国憲法上の課題について学びました。

今回、コロナ対策として、1テーブル1名、マイク使用者の限定、グループディスカッションは講義の質問を休憩中にまとめた質疑へと変更するなど、対面式での様々な対策がされました。



ウイズコロナ下での行事のあり方を青年活動も模索中です。青年の皆様の様子をぜひお聞かせください。

モラロジーを学んで、「良いこと」がありましたか？

「モラロジーを学んで、何か良いことがありましたか？」この質問は、モラロジーの会で、質問された言葉です。あなたは、この質問にどう答えますか？

人によって違う受け止め方

ある人は、「良いことは、特にありませんでした」と答えました。一方、私は、「たくさん良いことがありました」と答えました。

この違いは何でしょうか？私は、モラロジーを学んで、夫婦、親子、きょうだい、親戚などの人間関係が良く保てていることや、日常生活、近所付き合い、趣味、ボランティアの分野で、モラロジーの考え方で、良いことが沢山あったことを思い出しました。

その人は、良いことが一杯あっても、そのことに気が付いていないのだと思いました。

成果は、心(考え方)に現れる

私達は、具体的な成果(幸福)を求める傾向があります。例えば、道徳を実践して喜ばれたことその他、会社の業績が上がったとか、金持ちになったとか、子宝に恵まれたとか、子供が良い学校に行ったりとか、病気が治ったとかです。

でも大切なことは、心(考え方)の中の変化ではないでしょうか。

私の経験をお話します。ある細い道路があって、車が1台しか通れず、どちらかが譲らなければ通れないことがありました。以前の私は短気だったので、自分が先に通ろうとして、自分が先に通れた時には「勝った！」と喜んでいました。しかしモラロジーを学んで、相手本位の考え方になり、相手の車を先に通して「お先にどうぞ」の気持ちになると、イライラすることが減り、事故や違反も無くなりました。

薬と効能書

モラロジーは、倫理学ではありません。「親切」の大切さを学ぶのではなく、「親切」にすることの効果を学んで、実行することを教えてくれています。廣池博士は次のように述べています。

「モラロジーは薬の製造法と能書とのごときものにて、最高道徳の実行はその良薬を服用すると同一のものであります。」(『廣池千九郎語録』p.186)薬は飲んでみて、初めてその効果が現れるものなのです。

改訂
廣池千九郎語録

「聴く」—受容と共感の態度で傾聴する

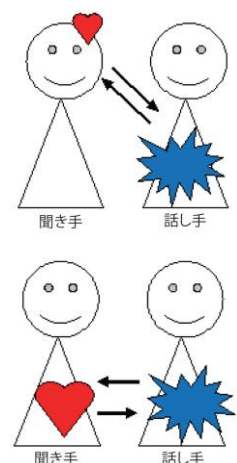
「話を聞く」のも道徳だと言われます。「聞く」のと「聴く」のは大きく違うと言われます。「聴く」というのは、受容(あるがままの相手を受け止める)と共感(相手の気持ちに寄り添う)の態度で、傾聴する(耳を傾けて真剣に聴く)ことで、道徳の実践になります。

父の話聴く

ここで、私の体験をもう一つ。遠方に暮らしていた亡父が、まだ存命中のことです。

親孝行のつもりで、私はたびたび柏から実家(石川県金沢市)に帰省するようになりました。その際に、父の話真剣に聴くようにした時期が、約3年間ありました。すると、父は私と話をすることを喜んでくれ、「和光は話の分かる良い奴だ」と周囲の人に話していたそうです。

その間、私が心掛けた幾つかのことがありました。話にうなずくなどリアクションすること、話の途中で話を遮らないこと、話の内容をオウム返しで確認しながらきくこと、父の気持ちをきくことでした。つまり、「頭で聞く」のではなく、「心で聴く」という姿勢に徹し



たのです。このことを簡単に図にすると右の通りです。

「明朗清新」の気分

話を聴くという道德を実行して、相手に喜ばれたことで、私は嬉しくなりました。この気分を、「明朗清新の気分」と言うようです。（『道德科学の論文①』参照）これは、明るく・ほがらかで・清らかで・新鮮な気分のことです。

気分というものは主観的なもので、人によって違うものです。例えば、野球観戦で、巨人が好きな人にとっては、巨人が勝ったから嬉しいけれど、負ければ残念な気分になり、勝敗によって人の気分が左右されます。

一方で、相手本位の道德心で行ったことで、相手から感謝された時の気分は、心から嬉しいものです。しかし、相手から直接感謝される場合ばかりではありません。その場合は、神様からいただけるご褒美があります。それが、この「明朗清新」の気分であり、品性の向上につながるものだとモラロジーでは教えてくれています。

格言「動機と目的と方法と誠をつくす」

最後に、『最高道德の格言』にある「動機と目的と方法と誠をつくす」という格言を紹介します。

道德を行う際に、動機が大事、目的が大事、という議論が昔からあります。しかし、モラロジーでは、動機と目的を尊ぶことは当然ですが、その方法にも重きを置くことを重要視しているということです。



「良いこと」を増やしましょう

方法として直ぐに実行できるものが、どの社会でも大切だと言える「報連相(ほうれんそう)」ではないでしょうか。会社だけでなく、夫婦でも、家族でも、地域社会でも、ボランティア活動でも、報告・連絡・相談はとても大切な道德であり、社会生活上の基本です。

良い心づかいと行いで日々過ごし、生活や人生に沢山良いことが起こっていることに気づけば、より道德の実践に心掛けることができるのではないのでしょうか。

＜青年育成課 土谷和光＞

【お知らせ】

次号は、令和2年10月8日です

基本的に毎月第2、4週配信！

活動情報、ご意見、ご感想など声をお聞かせください。

MANY 事務局へ

[発行・編集]

公益財団法人モラロジー研究所 青年育成課

(<https://www.facebook.com/moralogy.many>)

住所:〒277-8654 千葉県柏市光ヶ丘 2-1-1

[TEL:04-7173-3312](tel:04-7173-3312) FAX:04-7173-3259

※掲載記事の無断での転載、再配布はお断りいたします。事務局までご一報ください。